

スピリチュアリティとエネルギーケアの理解を深めよう！ スピエネット連続フォーラム'18~'19

名著『エネルギー医学の原理』解説シリーズ・第1回 エネルギー医学の歴史と「生体マトリックス」

「エネルギー医学」—この魅力的な領域は、かのアンドルー・ワイル博士も日本での講演において「21世紀は“エネルギー医学”の時代になる」と提唱していました。その医学的・科学的根拠を解説した『エネルギー医学の原理 その科学的根拠』（エンタプライズ）は、ジェームズL・オシュマン博士によるバイブル的存在です。

この連続講座は、オシュマン博士の理論を、「英語版の第2版」の最新の知見も含めて解説していく必聴の内容です。「エネルギー医学」に関心をお持ちの方は、ぜひ、この貴重な連続講座にご参加下さい。

★13:30~14:30「エネルギー医学の歴史をたどる」 川畑のぶこ（NPO法人サイモントン療法協会副理事長）

「エネルギー医学」は魅力的な領域でありながら、一方では、怪しいなぜ微妙な位置づけになっているのか？そこにはいくつかの歴史的問題があります。「機械論」と“生気論”の対立、20世紀初頭の電気療法の実際から、本格的な研究として知られるハロルド・サクストン・バー博士の「ライフフィールド」の業績など、エネルギー医学の発展を辿ります。

★14:40~15:40「生体マトリックスとは何か？」 降矢英成（赤坂溜池クリニック院長）

「エネルギー医学」が成立する1つの根拠として、有機体である「生体」に“磁気エネルギー”や“電気回路”が存在するという知見があります。そして、そのエネルギーが伝達される生体内の回路として、オシュマン博士が生体内に見出したのが「生体マトリックス」という連続体であり、この伝達システムは“超高速”の情報伝達システムだったのです。

★15:50~16:45 スピエネット対話<ダイアログ> 川畑のぶこ × 降矢英成

第1回目として、広い視点からダイアログを行い、2回目以降につながるように、立体的に理解を深めていきます。



■日 時:2018年10/6(土)13:30~16:45

■場 所:連合会館 401号室

■参加費:

シリーズ全4回 ①会員 8,000円 ②一般 12,000円

今回のみ参加 ③会員 2,500円 ④一般 3,500円

* 会員とは主催、共催、協力団体の会員を指します。

■申し込み手順

1. 必要事項(1 氏名、2 住所、3 電話、4E-mail、5 所属(①会員(団体名)・②一般)を、ho-kanto@tg.rim.or.jpへ(締切9/

28(金))。*または、FAXで 03-5572-8219まで。(当日のみ携帯:080-5484-8008)

2. 申し込み受理のお知らせ到着後1週間以内にお振込み下さい。三菱UFJ銀行 西新宿支店(普通)0057567

特定非営利活動法人日本ホリスティック医学協会

3. お振込み後、受付完了となります。お振込後の参加費はご返却できませんので代理受講でご対応をお願い致します。

<主催>NPO法人日本ホリスティック医学協会関東フォーラム委員会(生活習慣病予防指導士3単位)

<協力>日本アントロポソフィー医学のための医師会、日本マテティック心理学協会、NPO法人日本ヒーリングタッチ協会、NPO法人サイモントン療法協会、日本トランスパーソナル学会

<2回目以降のスピエネット連続フォーラムの日時・内容>

全4回：主催・共催・協力団体の会員8,000円、一般12,000円

各回：主催・共催・協力団体の会員2,500円、一般3,500円

★フォーラムⅡ：2018年12月1日(土) 13:30~16:45 (会場：連合会館502号室)

“生体マトリックス”を巡る仮説と“振動医学”

•「“生体マトリックス”を深める仮説

戸田美紀 (NPO 法人日本ヒーリングタッチ協会理事長)

エネルギー医学を理解するための基盤となる「生体マトリックス」の見解。オシュマン博士は、このシステムを裏づける種々の科学者の発見を解説しています。英語版の第2版では、オステオパシーの創始者のA・T・スティルの提唱した「膜・筋膜 fascia」についても詳しく触れるなど、その知見が一層充実しています。

•「“振動医学” 一波動ではなく“振動”である

山本 忍 (神之木クリニック院長)

エネルギー医学という、リチャード・ガーバーが著した「バイブレーション・メディスン」が有名です。この「vibration」は、波動という訳ではなく「振動」と訳すべきであるという指摘があるのをご存知でしょうか。今回は、「振動」という言葉の正しい理解を深めることで、正しくエネルギー医学を理解します。

○スピエネット対話<ダイアログ> 戸田美紀 × 山本 忍

「生体マトリックス」をより深く理解するとともに、「振動 vibration」についても、さらに深めていきます。

★フォーラムⅢ：2019年2月2日(土) 13:30~16:45 (会場：未定)

「脳・トラウマのエネルギー療法」と「生体磁気療法」

•「“脳”や“トラウマ”へのエネルギー療法

久保隆司 (日本ソマティック心理学協会会長)

「エネルギー療法」は、身体だけでなく、“心”や“意識”にも影響を及ぼします。今回は、まず「脳」へのエネルギーの影響と、心理臨床における「トラウマ」へのエネルギー療法のアプローチを学びます。そのメカニズムの科学的根拠としては、“同調”とか“共鳴”と呼ばれる状態が生じていることも分かっています。

•「“生体磁気”を活用した種々の療法

寺岡里沙 (NES HEALTH JAPAN)

エネルギー療法の代表的なものとして、“生体磁気”を活用したものがあります。その中心として、セラピスト・ヒーラーの手から放たれるエネルギーがあり、また、身体のさまざまな組織や部位に適した周波数を用いた療法「周波数療法」なども研究されています。その最新知見もおりませてください。

○スピエネット対話<ダイアログ> 久保隆司 × 寺岡里沙

脳・意識について、そして種々の生体磁気療法について、潜在意識の意味をも交えて深めていきます。

★フォーラムⅣ：2019年4月6日(土) 13:30~16:45 (会場：未定)

“ボディワーク”と“自然界・環境”のエネルギー

•「“ボディワーク”こそエネルギー医学である」

小笠原和葉 (ボディワーカー)

「ボディワーク」は、表面的には物的な治療と理解されていますが、実は、ボディワークこそ「エネルギー療法」であるという知見があります。クラニオセイクラルのフェザータッチも然りであり、特にオシュマン博士はロルフのロルフの治療観をととも評価しています。その意味を学んでいきます。

•「“自然界・環境”によるエネルギー効果とは」

寺岡文織 (NES HEALTH JAPAN)

そして、オシュマン博士の素晴らしいところの1つとして、きちんと「自然界・環境」によるエネルギーの影響についても言及していることが挙げられます。「シューマン共鳴・周波数」といわれるその現象についても押さえながら、最近の“グローバル・スケーリング”という知見も紹介いたします。

○スピエネット対話<ダイアログ> 小笠原和葉 × 寺岡文織

ボディワーク、そして自然界・環境と「エネルギー」のつながりを、さらに深めていきます。